

# 大日本スクリーン製造株式会社 2012年3月期 決算説明会

2012年5月9日

代表取締役社長 最高執行責任者(COO) 橋本 正博

## 本日のアジェンダ

- 2012年3月期 連結業績結果概要
- 事業状況
- 「中期3カ年経営計画*NextStage70*」進捗状況
- 2013年3月期 連結業績予想

### 資料取り扱い上の注意

・本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了承願います。

・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

2012年3月期決算説明会にお集まりいただき、ありがとうございます。

本日の決算説明会では、

- ・2012年3月期 連結業績結果の概要
- ・各事業の状況
- ・1年目を終えた「中期3カ年経営計画*NextStage70*」の進捗状況
- ・2013年3月期 連結業績予想

つきまして、ご説明させていただきます。

注：各事業セグメントは文中では以下の略号にて表現しています。

- ・SE (半導体機器事業、以下SE) セグメント
- ・FE (FPD機器事業、以下FE)セグメント
- ・MP (メディアアプロプレシヨテクノロジー-事業、以下MP)セグメント

>>MT部門 (印刷関連機器、以下MT)

>>PE部門 (プリント基板関連機器、以下PE)

2012年3月期  
連結業績結果

## 2012年3月期 連結業績結果

(単位：億円)	2011年3月期		2012年3月期		
	実績	実績	前期比	前回 (2/6) 予想	前回予想比
売上高	2,549	2,500	▲ 48	2,490	10
SE	1,742	1,675	▲ 66	1,654	21
FE	327	326	▲ 1	335	▲ 8
MP	473	491	18	495	▲ 3
印刷関連機器 (MT)	404	435	30	432	3
プリント基板関連機器 (PE)	68	56	▲ 12	63	▲ 7
その他(外部売上のみ)	6	7	0	6	1
<b>営業利益</b>	<b>268</b>	<b>134</b>	<b>▲ 133</b>	<b>140</b>	<b>▲ 5</b>
SE	281	136	▲ 145	-	-
FE	0	▲ 12	▲ 12	-	-
MP	▲ 13	23	36	-	-
その他および調整額	▲ 0	▲ 12	▲ 11	-	-
経常利益	265	122	▲ 142	130	▲ 7
当期純利益	256	46	▲ 210	65	▲ 18

2012年3月期 1株当たり期末配当 5円 (2012年6月27日定時株主総会決議予定)

\*SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

2

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

当2012年3月期（12ヵ月間）は、

売上高：2,500億円

営業利益：134億円

経常利益：122億円

当期純利益：46億円となりました。

当期は東日本大震災の影響が懸念されるスタートでしたが、その後も欧州債務問題や、それに伴う歴史的な円高、タイの洪水など、1年を通して厳しい経営環境が続きました。さらに、当期末にかけては、大手半導体メーカーや、印刷機器を手掛ける海外の大手メーカーが経営破綻するなど、当社関連業界におきましても大きな出来事が相次ぎました。

このような厳しい事業環境におきまして、売上高は前期に比べ1.9%の微減に止まりましたが、利益面につきましては、緊急対応策を実施していた前期に比べ、研究開発費や人件費などの固定費増加、製品価格の下落やプロダクトミックスの変化の影響などにより、営業利益は前期に比べほぼ半減となりました。

また、特別損失として、FPD機器事業などの固定資産の減損損失や貸倒引当金繰入額、投資有価証券評価損などが発生し、さらに、税制改正に伴う繰延税金資産の取り崩しもあり、当期純利益は前期に比べ大幅な減少となりました。

さらに、2月6日発表の通期業績予想と比べますと、売上高は10億円上回り、営業利益、経常利益は5億円、7億円それぞれ下回りました。当期純利益に関しては、想定していなかった貸倒引当金繰入の特別損失発生などにより18億円下回りました。

しかしながら配当金につきましては、このように当期純利益は予想を下回りましたが、1株当たり5円の期末配当予想には変更はございません。

## 2012年3月期 連結業績分析

## 売上高

実績 2,500億円・11/3期 2,549億円（前期比：48億円減少）

（単位：億円）

セグメント	11/3期	12/3期	差額	差異のポイント
SE	1,742	1,675	▲ 66	枚葉式洗浄装置が増加したが、バッチ式洗浄装置、コーターデベロッパが減少
FE	327	326	▲ 1	中小用装置は増加したが、大型用が減少
MP	473	491	18	
MT	404	435	30	CTPは減少したが、PODが北米向けに増加
PE	68	56	▲ 12	設備投資抑制により減少。国内向けは健闘するも、アジア向けが減少

## 営業利益

実績 134億円・11/3期 268億円（前期比：133億円減少）

（単位：億円）

セグメント	11/3期	12/3期	差額	差異のポイント
SE	281	136	▲ 145	研究費、人件費などの増加に加え、プロダクトミックスの影響により収益率は低下
FE	0	▲ 12	▲ 12	棚卸評価損計上などにより営業赤字化
MP	▲ 13	23	36	収益構造改革効果およびプロダクトミックスの改善で大幅黒字転換

3

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

次に、各セグメント別に当期業績をご説明いたします。

まずは売上高について、SE（半導体機器事業、以下SE）セグメントにおきましては、前期に比べ3.8%減少し、1,675億円となりました。製品別では、枚葉式洗浄装置は微細化に伴い増加しましたが、バッチ式洗浄装置やコーターデベロッパが減少しました。地域別では、国内向けは増加しましたが、アジア向けが減少しました。

FE（FPD機器事業、以下FE）セグメントにつきましては、テレビ用の第8世代装置は減少しましたが、スマートフォンやタブレット型端末の需要増加を背景に第5世代装置の売上が増加しました結果、売上高は前期に比べ1億円の減少に止まり、326億円となりました。

MP（メディア・アット・プレジジョンテクノロジー事業、以下MP）セグメントにつきましては、印刷関連機器（以下MT）の売上高は前期から30億円増加し、435億円となりました。北米向けにPODが伸びたことが主な要因です。

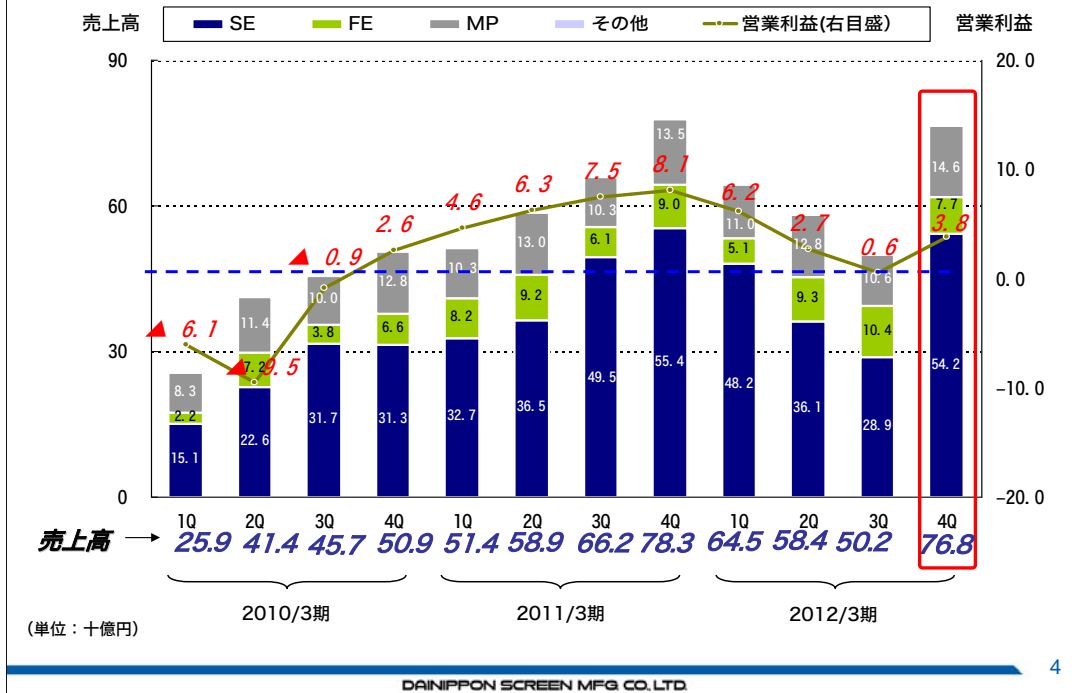
プリント基板関連機器（以下PE）は、プリント基板メーカーの設備投資が抑制されたことにより、売上高は前期に比べ12億円減少し、56億円となりました。

次に営業利益につきましては、SEでは、売上減少に加え、プロダクトミックスや固定費増加により、前期に比べ145億円減少し、136億円となりました。

FEでは、たな卸資産評価損を計上したことなどにより、営業損失が12億円となりました。

一方、MPでは、売上増加に加え、かねてより進めてきました収益構造改革によるコストダウンや固定費の大幅削減効果により、営業利益は前期に比べ36億円改善し、23億円となり、3期ぶりに黒字となりました。

### 売上高・営業利益 四半期推移（連結）

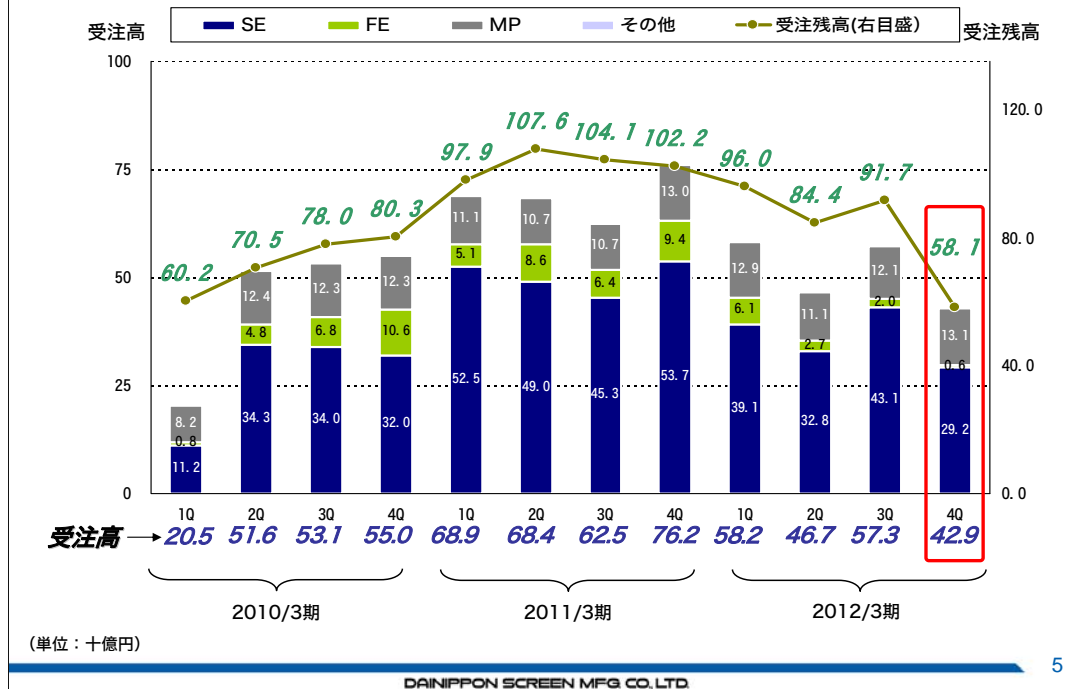


これは、売上高と営業利益の四半期推移を示したグラフです。

第4四半期は、SEの第3四半期のラッシュオーダー分の出荷により、売上が急増しました。また、MPにおきましても期末にかけて売上を伸ばしました。これらにより、第4四半期の全社売上高は768億円と前四半期（第3四半期）に比べ、53%増加しました。

営業利益につきましては、第4四半期は、第3四半期に比べ、研究開発費などの固定費が増加しましたが、売上増加による限界利益の増加などにより、32億円増加し、38億円となりました。

## 受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



このグラフは四半期ごとの受注高・受注残高をセグメント別に表したものです。

第4四半期の受注高は、全社で429億円となりました。

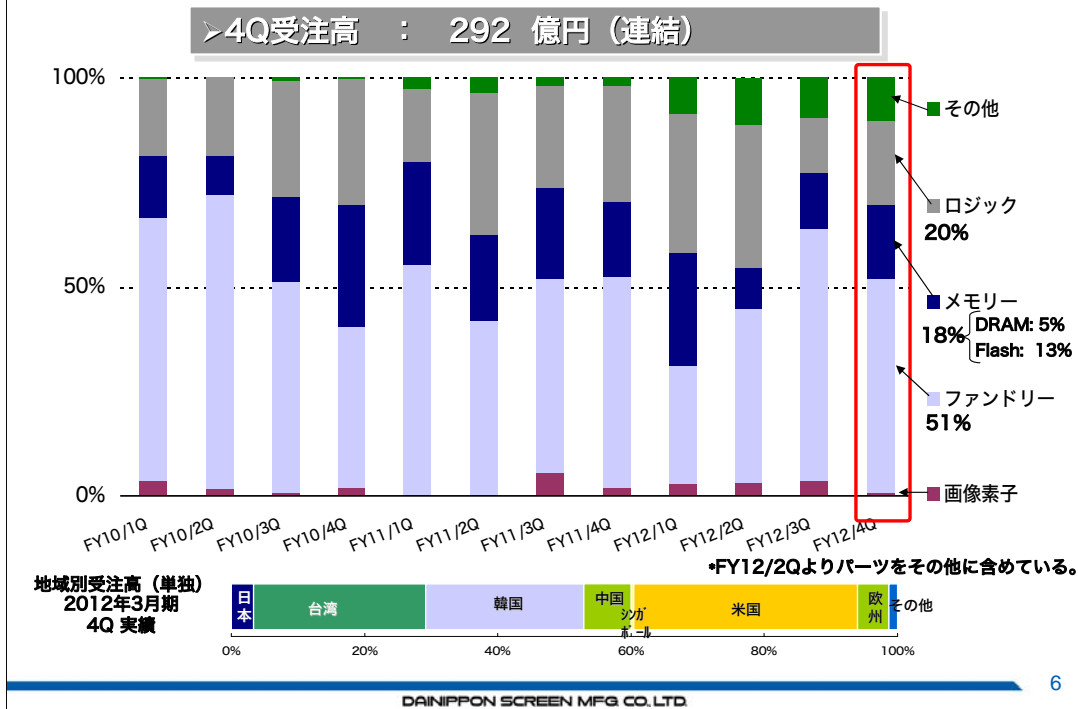
SEは、第3四半期のラッシュオーダーの反動から下落しましたが、想定範囲のほぼ下限の292億円となりました。

一方、FEは、お客さまにおける投資決定が遅れたのに加え、たな卸資産評価損を計上した案件の受注を取り消したことから、想定を大幅に下回り、6億円で低調な状況が続きました。

MPは、印刷関連機器では、国内でのCTPが堅調に推移したことに加え、英国ケンブリッジにあるINCA社の大判インクジェットプリンターの受注が好調だったことにより、第4四半期の受注額は131億円となりました。

当第4四半期末受注残高は、第4四半期の売上が非常に好調だったこともあり、581億円と急減しましたが、足元の第1四半期はSEの受注が好調であることから、再び増加すると予想しております。

<SEセグメント> デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)



次に、SEセグメントにおける半導体デバイス別受注比率につきましてご説明します。

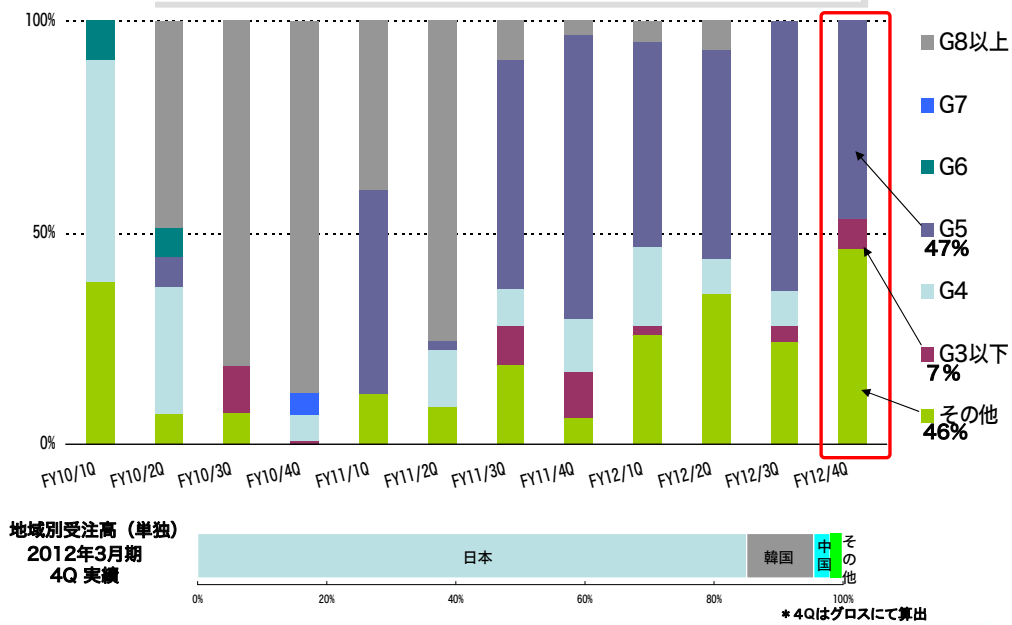
第4四半期は、依然としてファンドリー向け比率が50%を超えて高いものの、ラッシュオーダーのあった第3四半期と比べますと約10ポイント低下しました。

メモリーに関しましては、DRAM向けは低調が続きましたが、NAND向けは、第3四半期同様、一部のメーカーでは積極的な投資姿勢が見られました。

なお、足元の受注状況に関しましては、ファンドリーの微細化投資が活発化しており、洗浄装置への引き合いも強く、第4四半期に下落した受注は、第1四半期には大幅に上昇するものと予想しております。

<FEセグメント> 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

>4Q受注高 : 6 億円 (連結)

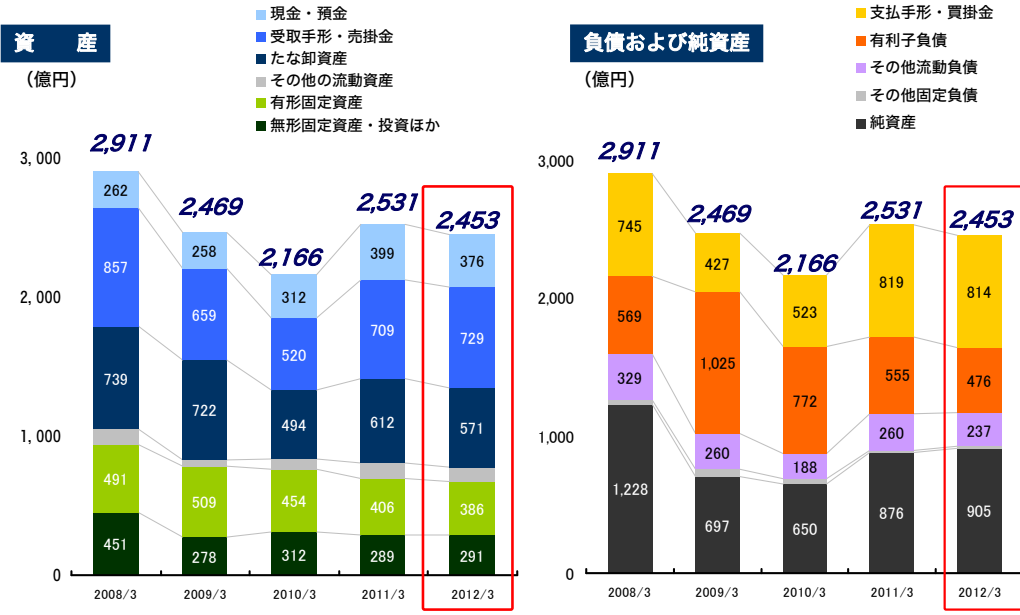


FEセグメントの受注に関しましては、当第4四半期は「その他」に区分された計測機器は堅調に推移しましたが、主力のFPD向け装置の受注は、お客さまの投資判断がずれ込んだことなどにより、非常に低調に推移しました。

しかしながら、第1四半期の受注見通しにつきましては、ずれていた商談がまとまる見込みから、大幅な回復を見込んでおります。



## 貸借対照表 (連結)



自己資本比率 34.4% (2011/3) → 36.7% (2012/3)

次に貸借対照表につきましてご説明いたします。

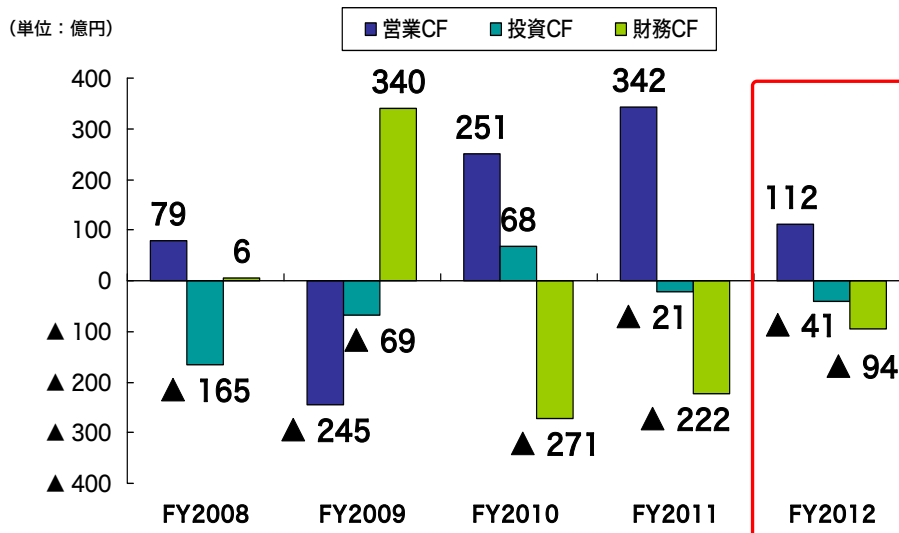
総資産合計は、第4四半期の売上増加により売上債権は増加しましたが、受注残高の減少によるたな卸資産の減少、減損損失による有形固定資産の減少、現預金の減少などにより、前期末に比べて77億円減少し、2,453億円となりました。

負債合計は、長期借入金の減少、社債や短期借入金の増加などにより、前期末に比べて107億円減少し、1,547億円となりました。

純資産の部では、配当金の支払いの一方で、当期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加し、純資産合計は、前期末に比べ29億円増加し、905億円となりました。これらの結果、自己資本比率は、前期末の34.4%から2.3ポイント上昇し、36.7%となりました。

## キャッシュ・フロー（連結）

フリーキャッシュ・フロー：71億円



次にキャッシュ・フローの状況です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益、減価償却費やたな卸資産の減少などの収入項目が、売上債権の増加、法人税等の支払額などの支出項目を上回り、112億円の収入となりました。

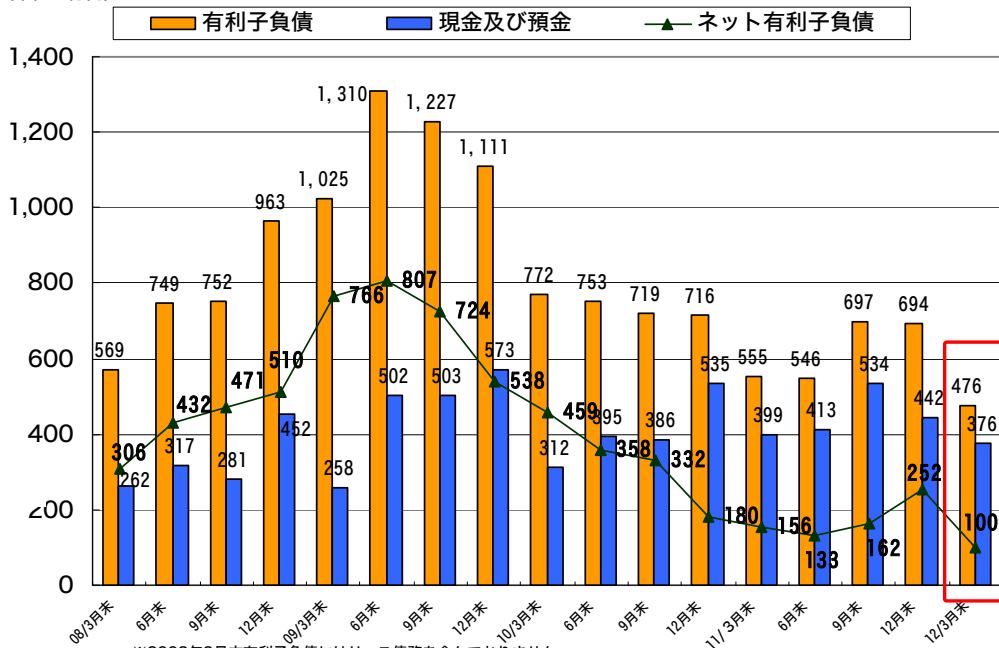
投資活動によるキャッシュ・フローは、京都市南区の久世事業所などの有形固定資産を売却した一方で、熊本県の生産拠点用地等の有形固定資産の取得や子会社株式の取得などを行った結果、41億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行等による収入がありましたが、社債の満期償還、長期借入金やリース債務の返済を行った結果、94億円の支出となりました。

以上の結果、当期末における現金及び現金同等物は、前期末に比べて27億円減少し、356億円となりました。

## 有利子負債推移(連結)

(単位：億円)



※2008年3月末有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

10

当期末の有利子負債は、第4四半期に長期借入金の返済などがあり、前期末に比べ79億円減少し、476億円となりました。また、有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債に関しましては、前期末に比べ55億円減少し、100億円となりました。

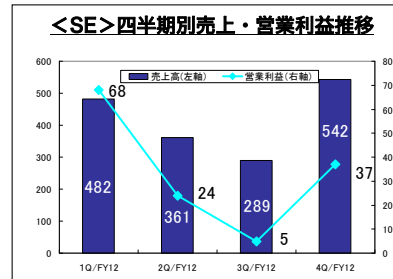
# 事業状況

## セグメント別事業状況

## SE

## 4Qの状況

- ・ ファンドリー向け売上が増加
- ・ R&Dは増加したが、売上増で収益増加
- ・ 受注額は概ね想定範囲



## 2013年3月期の展望

- ・ ファンドリーで先端向け受注が急回復の動き
- ・ 4Q受注状況より1Q売上低調なるも、2Q以降回復  
年間では2012/3期と同水準を予想
- ・ コストダウンやプロダクトミックス改善などにより、12/3期より  
収益改善を見込む
- ・ 研究開発の積極投資姿勢は継続

12

DAIIPPON SCREEN MFG CO.,LTD.

次に、事業の状況に関してご説明いたします。

まずはSEセグメントに関しましては、第4四半期は、第3四半期のラッシュオーダーにより、売上が大幅に増加しました。しかしながら、営業利益は、第3四半期に比べて研究開発費などの固定費が増加したのに加え、期末在庫の減少や在庫評価損の増加により、売上の伸びほどは増加しませんでした。また、受注に関しましては、メモリー向け受注が想定を下回りましたが、全体としては想定レンジの下限あたりに着地しました。

2013年3月期の市場見通しは、先端向けにファンドリーの投資は加速するものの、メモリーにおきましては、市況回復の遅れにより量産投資が抑制されると予想されますことから、製造装置市場全体は、前年に比べて若干のマイナスを想定しています。

このような状況下におきましても、当社としましては、第1四半期の売上は、第4四半期の受注状況から低調が予想されますが、足元の受注回復状況から、第2四半期より売上は回復してくるものと予想しており、通期売上では、2012年3月期に比べ微増を想定しています。

製品に関しましては、枚葉式洗浄装置は引き続き増加が見込まれ、コストダウンを進めるとともに、SU-3200の売上比率を高めて、市場シェアアップおよび収益改善に努めてまいります。また、洗浄技術をはじめとする既存事業分野における技術のさらなる深耕、他領域への拡大、450mmウエハー対応装置などの研究開発投資は、引き続き積極的に進めてまいります。

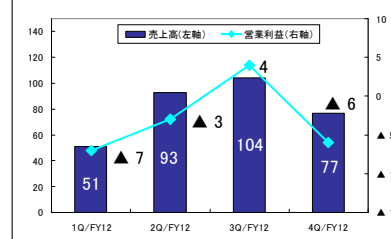
## セグメント別事業状況

## FE

## 4Qの状況

- ・ 中小型用装置が売上のメイン
- ・ 棚卸資産評価減を計上
- ・ 投資計画が遅れ、受注は低水準が継続

&lt;FE&gt; 四半期別売上・営業利益推移



## 2013年3月期の展望

- ・ 厳しい市場環境下、売上確保を図る
- ・ 固定費、変動費の削減を進める
- ・ 1Qには受注回復を期待
- ・ 有機EL用ノズルプリンターの受注獲得を図る

次に、FEセグメントは、第4四半期に関しましては、売上が第3四半期に比べて減少しました。これは、中小型用装置の売上は堅調に推移しましたが、中国向けの第8世代装置の売上が減少したことが主因です。これらのプロダクトミックスの変化により限界利益率は改善しましたが、たな卸資産評価損を計上したことなどにより、第4四半期は営業損失となりました。

2013年3月期におきましては、液晶用装置は非常に厳しい事業環境が予想される中、有機EL用装置、計測機器などにより、売上確保を図ってまいります。

また、前期の固定資産減損処理や新規事業の開発メンバーの異動により、固定費は軽減しますが、経費関係をさらに絞り込んでいくのと同時に、中小型向け装置を中心に、設計からの見直しや海外調達比率の向上などにより、変動費を低減し、下期（6カ月）には黒字転換を図りたいと考えております。

さらに、有機EL材料塗布用のノズルプリンターにつきましては、引き続き、受注獲得を目指してまいります。

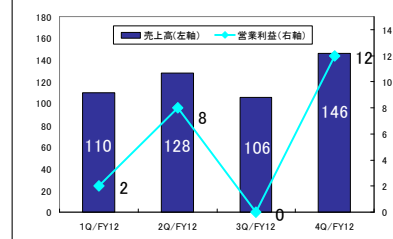
## セグメント別事業状況

## MP

## 4Qの状況

- ・ CTP、PODともに3Qに比べ売上増加
- ・ POD用インクの売上も堅調に伸長
- ・ PCB関連機器は国内で売上増加
- ・ 製品構成改善などで収益大幅に改善

&lt;MP&gt;四半期別売上・営業利益推移



## 2013年3月期の展望

- ・ POD市場の拡大は継続
- ・ 展示会「drupa2012」にてPOD新製品発表
  - ラベル用POD「Truepress Jet L350UV」
  - サインディスプレイ用POD「Truepress Jet W1632UV」
- ・ PCB関連機器では直接描画装置にて売上増加を図る



ラベル用POD

14

DAIIPPON SCREEN MFG CO.,LTD.

MPセグメントにつきましては、第4四半期は、CTP、PODともに第3四半期に比べ売上を伸ばすことができました。国内市場での売上拡大が大きく貢献しました。また、インク売上もPODの累積設置台数に応じて、着実に伸びてきております。これらにより、営業利益は、第3四半期に比べ大幅に改善し、12億円を計上することができ、年度を通して4四半期とも営業利益を確保することができました。

2013年3月期はPOD市場は引き続き成長が見込まれます。このようなPOD市場に対して、5月3日からドイツで開催されている世界最大の総合印刷機材展「drupa」を契機に、ラベル印刷用PODおよびサインディスプレイ用PODの2機種の新製品を発表しました。

いずれの機種も当社がメインにしている商業印刷以外の成長分野を対象にした商品で、これらのPODによって対象市場の拡大を目指してまいります。

PEでは、プリント基板の微細化が進む中、昨年発表した直接描画装置「Ledial 5」は総じて業界の反応は良く、この戦略商品をもって国内外市場での売上拡大を図ってまいります。

「中期3カ年経営計画  
*NextStage70*」  
進捗状況



## 収益構造の確立と新たな成長への基盤づくり

## ■既存事業での取り組み

- ・SE事業
  - 枚葉式洗浄装置「SU-3200」への切り替え促進
  - 後工程分野への参入—直接描画装置「DW-3000」
- ・FE事業
  - 事業構造改革を実施（2011年10月～）
- ・MP事業
  - 事業構造改革により黒字転換
  - 中国生産工場の拡張によるCTPのさらなるコストダウン体制構築
  - PODの製品ラインアップ充実と販売拠点の整備



DW-3000

## ■新たな成長への取り組み

- ・エネルギー分野での事業化を目指し、
  - 「エネルギー技術開発推進センター」設立
    - リチウムイオン電池製造装置
    - 太陽電池関連機器

16

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

次に、昨年4月からスタートしている「中期3カ年経営計画NextStage70」の進捗状況に関しましてご説明します。

「収益構造の確立と新たな成長への基盤づくり」を基本方針に、既存事業領域での取り組みとして、

主力SEセグメントでは、製品競争力の高い「SU-3200」のお客さまの評価を積極的に進め、主要お客さまでの切り替えを促進しております。また、TSV市場をターゲットに新製品「DW-3000」を開発し、後工程への事業領域の拡大の足がかりをつけることができました。

FEセグメントでは、市場環境が厳しくなる中、いち早く収益構造改革に取り組み、市場変化の影響を最小限に止めております。

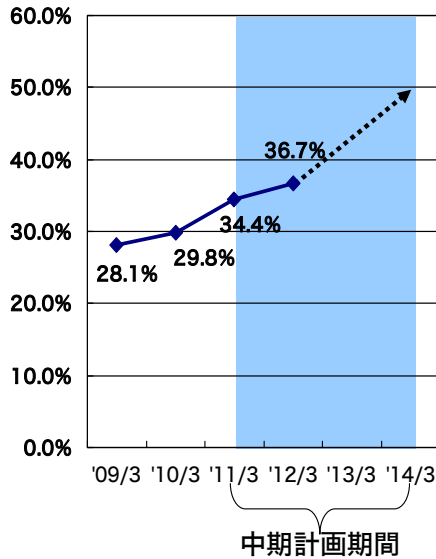
MPセグメントでは、2012年3月期は営業黒字に転換することができました。またCTPのコストダウンを一層推進すべく、中国の生産工場でのCTPの生産能力を増強しました。さらにPODでは、製品ラインアップの充実を進めるとともに、日本、米国、欧州でのショールームを整備しました。

次に、新たな成長に向けた取り組みにおきましては、21世紀に求められる事業領域である「エネルギー分野」に参入を図るべく、「エネルギー技術開発推進センター」を新設しました。具体的には、リチウムイオン電池製造装置に関しましては、今年2月に開催された「二次電池展」に出展し、電極塗工乾燥装置市場に参入いたしました。また、PV関連機器に関しましては、パートナーと組み、新技術の開発を進めております。

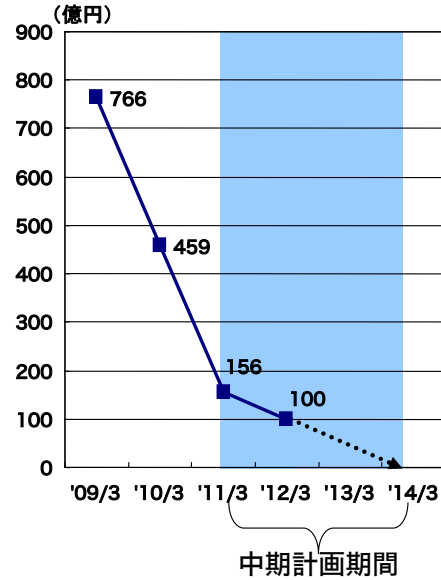
さらに、自社技術の補完や新規領域への展開のために、他社とのアライアンス、提携を積極的に進めてまいりたいと考えております。

## 中期計画の進捗状況（数値目標）

## 自己資本比率50%へ



## 純有利子負債ゼロへ



17

DAINIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

次に、数値目標に関しましては、売上高や利益は、想定以上の厳しい経済環境の下、不満足な結果となりましたが、メインの数値目標に掲げた「自己資本比率50%」「純有利子負債ゼロへ」といった、当社の課題である財務体質の改善につきましては、グラフが示しますように、目標達成に向けて一定の成果が出ていると考えております。

2013年3月期  
連結業績予想

## 2013年3月期 連結業績予想

設定為替レート: USD1=80yen, EUR1=105yen

(単位: 億円)

	2013年3月期			2012年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
	予想	予想	予想	実績	実績	実績
売上高	1,130	1,340	2,470	1,230	1,270	2,500
SE	825	885	1,710	844	831	1,675
FE	50	180	230	144	182	326
MP	250	270	520	238	252	491
(MT)	216	234	450	209	225	435
(PE)	34	36	70	28	27	56
その他(外部売上のみ)	5	5	10	3	3	7
営業利益	35	115	150	90	44	134
SE	-	-	-	93	42	136
FE	-	-	-	▲10	▲1	▲12
MP	-	-	-	10	12	23
その他および調整額	-	-	-	▲3	▲9	▲12
経常利益	30	110	140	88	34	122
当期純利益	20	95	115	65	▲18	46

\*2013年3月期 年間配当金予想: 1株当たり配当金 5円 (期末)

19

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

最後に2013年3月期の業績予想は、経済環境が不透明な中、あまり楽観的な見通しを立てることが困難な状況におきまして、

SEでは、市場環境の好転による売上増加を見込まず、コストダウンやプロダクトミックスの改善により、収益率を高めてまいります。

FEでは、液晶用投資が大幅に減少することが見込まれる中、液晶以外の分野での売上確保とコストダウン、経費削減により、利益の落ち込みを最小限に止め、下期は黒字転換を目指します。

MPにおきましては、ますます市場拡大が見込めるPODにおきまして、印刷機材展「drupa」を契機にさらなる売上拡大を目指してまいります。

以上より、2013年3月期の通期業績予想は、売上高は2,470億円、営業利益150億円、経常利益140億円、当期純利益は115億円を予想しております。

なお、2013年3月期の配当金につきましては、業績予想および財務状況などを総合的に考慮し、1株当たり5円(期末配当予想)とさせていただきたいと考えております。

本日は、ありがとうございました。